GyouseiNews.Com The Gyousei Chosa Shimbun 行政調査新聞

＜海外情勢＞

12月8日「One Taiwanプロジェクト」が「大成功」

自由・民主・独立の台湾を応援する日本人が大集結

藤 井 厳 喜 〈国際政治学者〉

12月8日、13時から18時半まで東京大手町の会場で「One Taiwanプロジェクト」が挙行された。筆者が中心となり、主催したイベントである。

主旨は、独立・自由・民主の台湾を応援することである。そういった親台湾の日本人を多く結集し、台湾人に勇気をだしてもらおうというのがその目的でもある。というのも2020年1月11日には、台湾総統選挙が行われ、時を同じくして立法院(国会)の選挙も行われる。

ここで独立色を旗幟鮮明にしている蔡英文現総統に再選してもらい、また立法院でも与党の民進党に勝利してもらいたいというのが、主催者の意図であった。多くの日本人が蔡英文総統を支持し、自由・民主・独立の台湾を守ろうとしているという事実を何とか台湾側に届けたいという切なる想いで、このイベントを実現したのである。

約5000人の人々がイベントに参加？

会場に集まったのは約700人であったが、インターネットライブ中継の申し込み件数は1,700件強であった。しかもその申し込みは、日本国内はもとより台湾・アメリカ・オーストラリア・ニュージーランド・カナダ・ヨーロッパ各国から殺到した。1件のインターネット申し込みに対して、2人が視聴していると仮定すれば、この中継だけで3400人以上がこのイベントに参加していたことになる。もし平均3人が視聴していたとすれば、それだけで5,100人である。実際、筆者のもとには**「家族で見ている」「友人とみている」**といった声が多く寄せられた。

これは筆者の希望的観測ではあるが、多めに見積もれば**4,000人から5,000人**の人々が、このイベントに参加していたのではないだろうか。

当日は、台湾のメディアも取材に駆けつけてきてくれた。新聞は自由時報と台湾新聞。テレビは民視が報道してくれた。当日の8日の夜、早くも民視は2分47秒も使って、イベント全体を報道してくれた。政治ニュースで3分近いテレビ報道がなされるのは、まれなことである。また後述するが、自由時報が書いた筆者のスピーチに関する記事が、思わぬインパクトを台湾の世論に与えることになった。

2つの講演と2つのシンポジウム

当日のシンポジウムの内容は、4つのセクションに分けられていた。

まず開会の挨拶を、講演団体を代表して趙中正・全日本台湾人連合会会長に頂いた。これに続いて王明理・台湾独立建国連盟日本本部委員長に、自由・民主の台湾を守ることが日本を守ることに繋がる。また台湾の独立とは、中華民国体制からの独立であるという趣旨の挨拶を賜った。

続いて冒頭の講演は、筆者・藤井厳喜が**「東アジアの民主政治の砦である台湾の重要性」**を約30分、お話させていただいた。

この中で私は、来年1月11日の選挙に向けて、中国共産党が謀略を実行する可能性がある点を指摘した。現在のままでは、蔡英文総統が圧勝することは確実である。そこでこの選挙を無効にしてしまうために、対立候補である国民党の韓国瑜候補を、中国共産党の指令を受けたテロリストが暗殺する危険性があると指摘したのだ。

なぜなら台湾の法律では、総統選の候補者が暗殺されてしまえば、総統選自体が延期されることが決まっているからだ。ないしは結果が出ても無効となってしまう。そんなことは考えたくもないが、もし蔡総統が暗殺されてしまうようなことがあれば、犯人はだれか一目瞭然となってしまう。しかし中国共産党に近く、台湾の併合を主張する国民党の韓国瑜候補が暗殺されれば、犯人は独立派であると印象操作をすることができる。

勿論、選挙が延期されれば、その間は現役の蔡英文総統が暫定的に総統の座に留まるが、台湾政局は大混乱に陥ってしまう。その混乱を利用して謀略と暴力で、中国共産党に有利な情勢を作り出すことは可能なのである。

中国共産党は謀略と暴力で国家権力を握った組織であり、一度も公明正大な選挙を経験したことのない政党である。こういった謀略がありうるという可能性に

ついて、台湾人も日本人も十分に警戒しなければならない。世論調査でリードしているからといって、蔡英文支持者や民進党支持者は楽観的になりすぎてはいけない。というのが著者のメッセージであった。

思わぬ反響を呼んだ藤井発言

この私の警告が、シンポジウム閉幕直後から台湾で大きなセンセーションを巻き起こした。取材に来た自由時報は、筆者のこの発言だけを取り上げた記事を12月9日付けで速報した。

日學者警告：慎防中共暗殺台灣總統候選人
https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/3002925

日學者警告：慎防中共暗殺台灣總統候選人

日本國際政治學者藤井嚴喜8日主辦「守護自由開放台灣—ONE TAIWAN」研討會，分析台灣明年1月大選與日本安全息息相關。（記者林翠儀攝）

2019-12-09 06:18:31
首次上稿 00:59
更新時間 06:18

他の主要新聞もこの自由時報の記事を引用する形で、筆者の警告を大々的に報道した。自由時報の政治部門の政治注目度では、筆者のこのニュースがナンバー1にランクされるほどであった。

12 月 8 日夜、台湾のテレビ局**「民視」**が約 3 分にわたってこのイベントについて紹介してくれたことはすでに述べたとおりである。

謝長廷大使の挨拶と林建良氏の講演

続いて、台湾の謝長廷駐日代表（**大使**）がユーモアあふれる口調で、日台が自由・民主・法の支配といった価値観を共有する友好国であり、切っても切れない関係にあることをわかりやすくお話された。続いて、シンポジウムの基調講演として、在日 30 年の林建良医師が**「台湾人が見た台湾と日本」**と題して、熱情こもる講演をされた。自らの体験に基づき、日本と台湾の関係を師弟関係に例えて、涙あり、笑いありの印象的な講演であった。

2つのパネルディスカッション

パネルディスカッションの第 1 部は、林建良氏と筆者が対談の形で担当した。米中関係は 50 年に 1 度のパラダイムシフトが起きており、この新しい米中対立関係の中で台湾が決定的に重要な役割を果たすことを指摘した。両者の共通の結論は、**「米中対決の関ヶ原は台湾の争奪戦である」**ということであった。

パネルディスカッションの第 2 部では、林建良氏と筆者に加えて、渡辺利夫・李登輝友の会会長と王明理・台湾独立建国連盟日本委員長に参加していただき、台湾情勢について多角的に検討した。結論として、日本の防衛と台湾の防衛は不可分であることが確認された。

最後に渡辺利夫会長が**「日本は未だかつて台湾が中華人民共和国の領土の一部であると認めたことは一度もないのだ」**という事実をきわめて学術的に論証されて、このセッションを終了した。最後には、会場の参加者とともにスタッフも壇上にあがり、参加者とともに**「台湾加油**（台湾がんばれ）**」「蔡英文加油**（蔡英文がんばれ）**」**のコールを繰り返し、熱い熱い感動の中でイベントは閉幕した。

その後の反応…

中国共産党の暗殺謀略に関する筆者の発言は、その後も台湾メディアによって大きく報道された。イベントの翌日 12 月 9 日には、蔡英文総統自身がこの件についてコメントを求められている。また、韓国瑜候補もこの件についてメディアから質問を受けている。

https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/3003809

また台湾立法院（国会）の王定宇・外交委員長もテレビで藤井厳喜発言についてコメントし、**「台湾で藤井氏と会いたい」**と語った。

12 月 9 日、台湾の政治討論番組で新台灣加油國會觀察基金會董事長の姚立明、テレビ番組**「年代」**の張雅琴等が、テレビでこの藤井発言を提起し、討論した。その様子は以下の YouTube で確認できる。

https://youtu.be/zXeS7721gng?t=770

又、チャイナの自由化・民主化でオーストラリアに亡命した袁紅氷氏が三立テレビで、「藤井厳喜氏が指摘したような謀略の可能性は十分にありうる」と指摘し、筆者の発言を支持してくれた。

袁紅氷の筆者の意見を肯定する発言は自由時報でも取り上げられている。

https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/3003800

さらに民視の有名な討論番組、周玉寇の**「辣新聞」**や、本稿を執筆中の 12 月 11 日付け**「台湾時報」**の社説でも、台湾の著名評論家・陳茂雄氏が藤井発言を取り上げる等、話題になったようである。

「One Taiwan プロジェクト」は我々が計画した以上の大きなポジティブなインパクトを台湾に与えることができたようである。

ご支援をくださった皆さんに心より御礼を申し上げたい。

筆者はこの後、12 月 14 日に台湾で催される安全保障関係のシンポジウムに参加する予定である。8 日のシンポジウムによせられた日本人の台湾支持の熱意を台湾側に確実に伝えさせていただくつもりである。今回は訪台の直前であるため、短めの原稿となったことを読者諸賢にお詫びする次第である。